
透析専門施設の看護師を対象としたバーンアウト状況と職業的成熟度の関連

医療法人衆和会 長崎腎病院

○上谷しのぶ 丸山祐子 澤瀬健次 原田孝司 船越 哲

【目的】

透析専門施設の看護師のバーンアウト状況と職業的成熟度の関連を調査する。

【方法】

当院の看護師 71 名を対象に、MBI 測定尺度を用いてバーンアウト状況を評価し、職業的成熟度との関連を調査した。

【結果】

バーンアウトにおける「脱人格化」で、職業的成熟度の関心性・自律性・計画性すべての尺度で負の相関を認めた。職業的成熟度が高くなるほど、また自律性が高い看護師ほどバーンアウトにおける「脱人格化」が有意に低かった。

【考察】

透析看護職は継続的な学習や、よい人間関係を構築することが求められ、バーンアウトに陥りやすいとされている。スタッフの多くが女性であり、結婚、出産などのライフイベントとの関連も考えられる。職業的成熟度を高めるとともに「脱人格化」に重点をおいた、バーンアウト要因を意識する必要性がある。